

第 17 回 ODA 評価ワークショップ

2022 年 2 月 2 日・3 日

目次

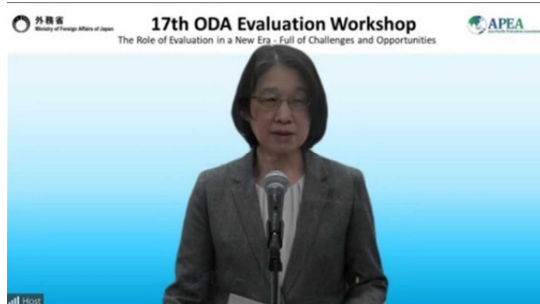
写真		3
広報資料		7
プログラム		8
共同議長サマリー		10
発表要旨		14
発表者プロフィール		18
参加者の声		22
参加者リスト		24

＊本和文報告書は、英文報告書の議事録部分を除く和訳となります。

写真

開会セッション

＜共催者より歓迎及び開会の挨拶＞

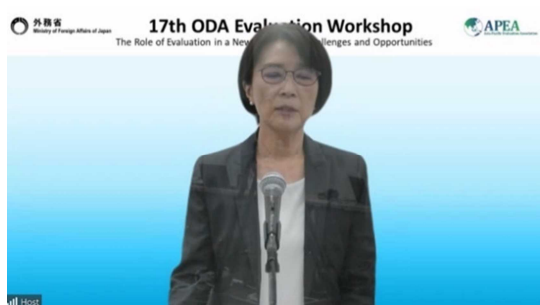


■岡田恵子氏
外務省国際協力局審議官(大使)



■アセラ・カルガンピディヤ氏
アジア太平洋評価学会 (APEA) 会長

＜共同議長によるワークショップの紹介及び議題の説明＞

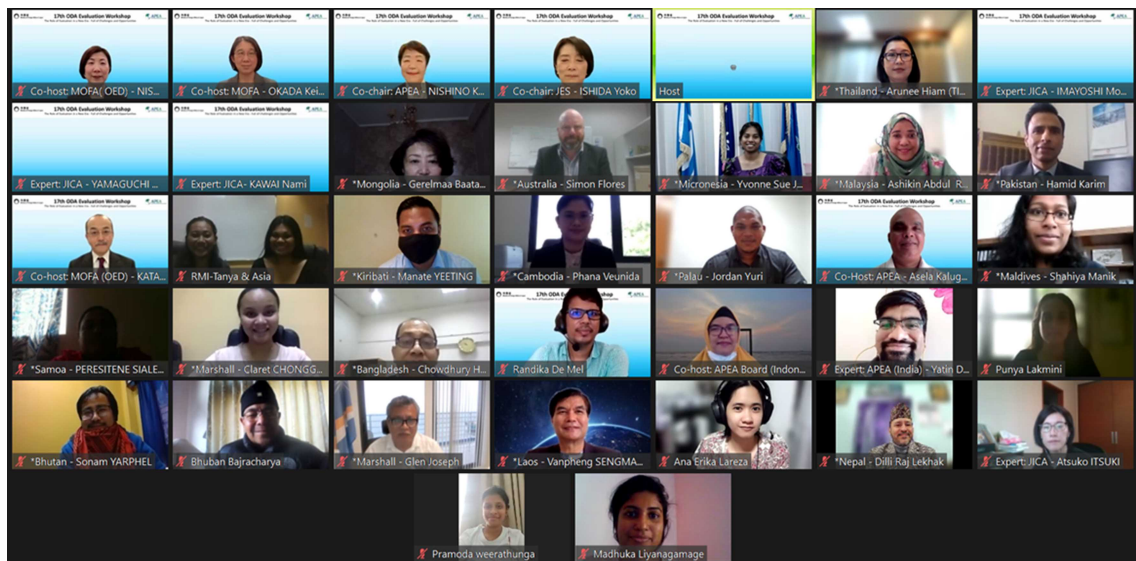


■石田洋子氏 日本評価学会副会長

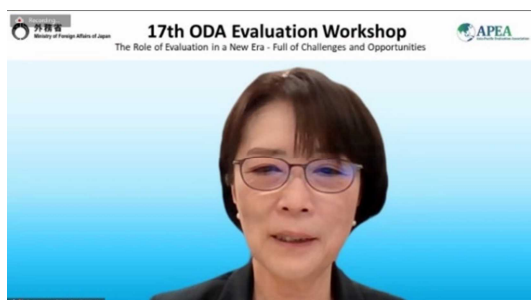


■西野桂子氏 APEA 副会長

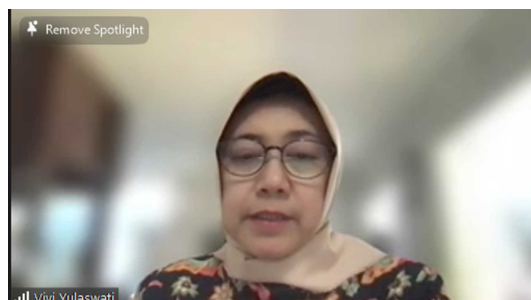
写真撮影



セッション1: SDGs の実施とモニタリングの進捗、成果及び課題:インドネシアのケーススタディ



■リードファシリテーター:石田洋子氏
広島大学教授/JICA 専門家



■発表: フィフィ・ユラスワティ氏
国家開発計画庁 SDGs事務局長

<発表－自国における SDGs の進捗状況>に関する情報共有>



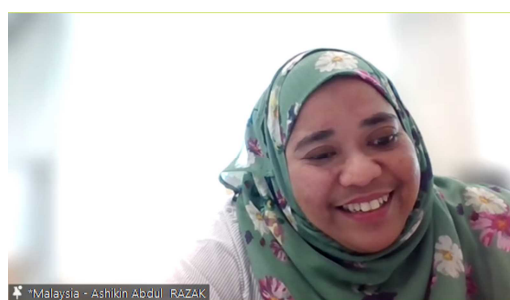
■バングラデシュ:チョウドゥリー・ゼア・ウディン・ハヤット博士 財務省経済局 FABA&ICT 担当局長



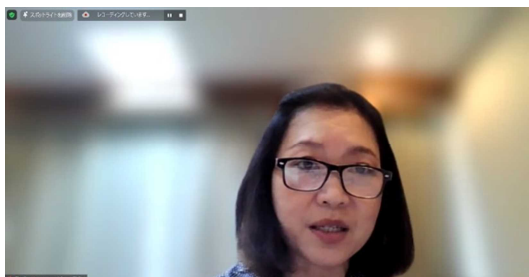
■カンボジア:ファーナ・ヴェウニダ氏
カンボジア開発評議会会長



■ラオス:ヴァンフェン・セングマノン氏
計画等指標国際協力局 副本部長

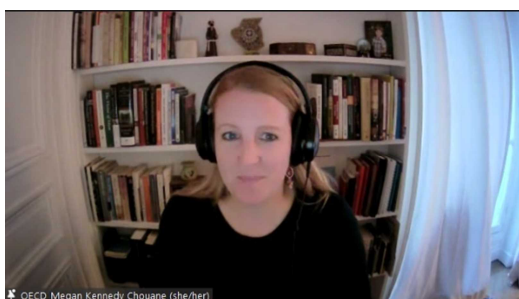


■マレーシア:アシュキン・アブドゥル・ラザク氏
総理府経済企画室室長



■タイ:アルニー・ハイアム氏 タイ国際協力機
関開発推進調整部部長

セッション2: より良い評価のためのより良い基準

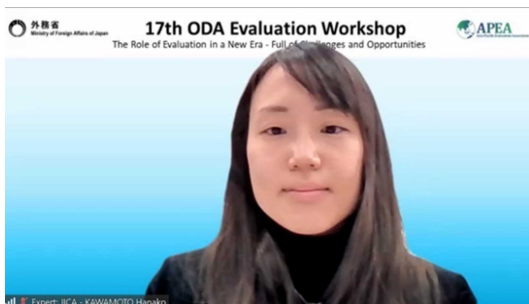


■リードファシリテーター／発表:
メーガン・ケネディ=シュアン氏
OECD-DAC 開発協力局評価ユニット長

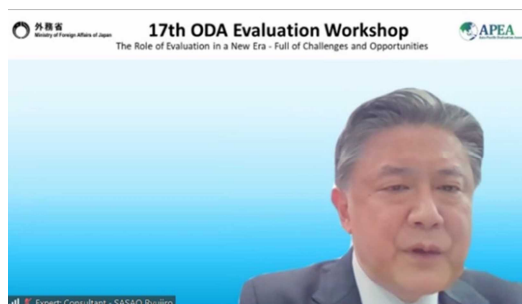


■発表: 山口みちの氏
JICA 評価部事業評価第1課長

セッション3: JICA の保健セクターへの協力に関するテーマ別評価

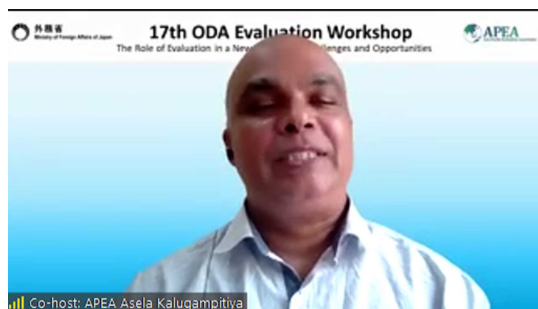


■リードファシリテーター: 川本華子氏
JICA 評価部事業評価第2課



■発表: 笹尾隆二郎氏
アイ・シー・ネット(株)シニアコンサルタント

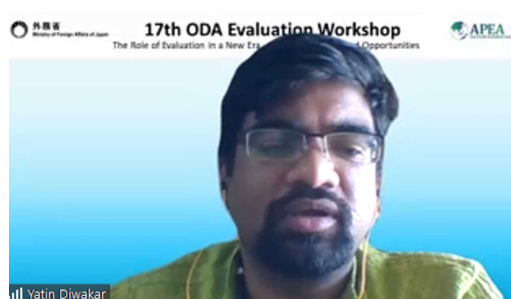
セッション4: 評価の制度的利用:政策評価制度の役割



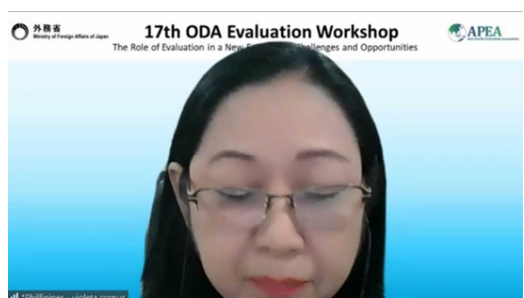
■リードファシリテーター: アセラ・カルガンピティヤ氏
APEA 会長



■発表: カビール・ハシム氏
スリランカ国会議員



■発表: ヤティン・ディワカー氏
APEA 政策評価制度テーマリーダー



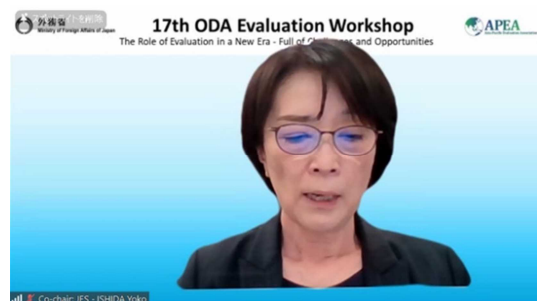
■発表: ヴィオレッタ・コープス氏
フィリピン国家経済開発庁 M&E 担当部長



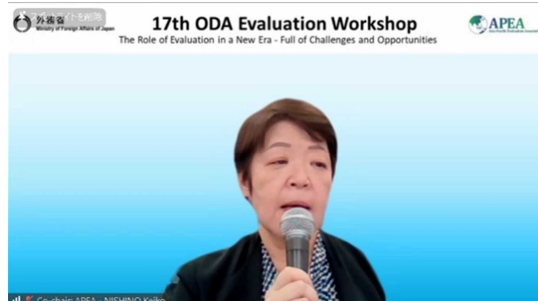
■発表: シュウエイタ・シャルマ氏
インド行政委員会開発・M&E 室部長

閉会セッション

< 共同議長サマリー >



石田洋子氏



西野桂子氏

広報資料

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance (ODA) Evaluation Workshop

Jointly Hosted by
Ministry of Foreign Affairs of Japan(MOFA) and Asia Pacific Evaluation Association (APEA)

on 2nd - 3rd February 2022 (Virtual)

Stay tuned to learn the outcomes of the workshop !!!

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance(ODA) Evaluation Workshop

"The Role of Evaluation in a New Era - Full of Challenges and Opportunities"

Opening Session
2nd February 2022 @ 13:30-13:45(Tokyo Time)

OKADA KEIJO
Deputy Director General/Deputy Assistant Minister (Economic), International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs of Japan

ASELA KALUSAMITTHI
President, Asia Pacific Evaluation Association

ISHIDA YOKO
Vice President, Japan Evaluation Society

NISHINO KEIKO
Vice President, Asia Pacific Evaluation Association

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance(ODA) Evaluation Workshop

Session #01: Progress, Achievement and Challenges of Implementing and Monitoring SDGs: A Case Study of Indonesia
2nd February 2022 I @ 13:50 – 15:20(Tokyo Time)

LEAD FACILITATOR
Ishida Yoko
Professor, Hiroshima University, Indicator and Statistics Expert of JICA-BAPPENAS Project for Strengthening Framework of Implementation of SDGs in the Republic of Indonesia

SPEAKER
Vivi Yulieswari
Head, SDG National Secretariat, BAPPENAS

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance(ODA) Evaluation Workshop

Session #02: Better Criteria for Better Evaluation
2nd February 2022 I @ 15:30 – 17:00(Tokyo Time)

LEAD FACILITATOR
Megan Kennedy-Chouane
Head of Evaluation Unit, Development Co-operation Directorate, OECD-DAC (Ireland)

SPEAKER
Yamaguchi Michino
Director, Evaluation Division 1, Evaluation Department, JICA

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance(ODA) Evaluation Workshop

Session #03: Thematic Evaluation of JICA's Cooperation in Health sector
3rd February 2022 I @ 13:30 – 15:00(Tokyo Time)

LEAD FACILITATOR
Kawamoto Hanako
Evaluation Division 2, Evaluation Department, JICA

SPEAKER
Sasao Ryujiro
Consultant, iNet Rd.

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

APEA
Asia-Pacific Evaluation Association

The 17th Official Development Assistance(ODA) Evaluation Workshop

Session #04 - "Institutional Use of Evaluation: The Role of National Evaluation Policy and System"
3rd February 2022 I @ 15:15 – 16:45(Tokyo Time)

LEAD FACILITATOR
Asela Kalusamitti
President, APEA

SPEAKER
Kabir Hashim
Member of Parliament, Sri Lanka

SPEAKER
Viola Corpus
Director, National Economic & Development Authority, Philippines

SPEAKER
Shweta Sharma
Director, Development Monitoring and Evaluation Office, NITI Aayog, India

SPEAKER
Yatin Choudhary
NIPS Theme Leader, APEA

17odaew_secretariat@iajap.com / afea.coordinator@gmail.com @APEAeval

プログラム

テーマ:新しい時代における評価の役割-多くの課題と機会

第1日目	
13:10-13:30	受付
13:30-13:45 (15 分間)	開会セッション -共催者より歓迎及び開会の挨拶 外務省国際協力局審議官(大使) 岡田恵子氏 アジア太平洋評価学会(APEA)会長/スリランカ・スリ・ジャヤワルダナプラ大学評価センター長 アセラ・カルガンピティヤ氏 -共同議長によるワークショップの紹介及び議題の説明 日本評価学会副会長 石田洋子氏(広島大学教育開発国際協力研究センター長兼教授) APEA 副会長 西野桂子氏(関西学院大学総合政策学部教授) - 事務的事項に関する説明
13:45-13:50	写真撮影
13:50-15:20 (90 分間)	セッション1: SDGs の実施とモニタリングの進捗、成果及び課題:インドネシアのケーススタディ リードファシリテーター:広島大学教授/JICA-BAPPENAS インドネシア共和国持続可能な開発目標(SDGs)実施体制強化プロジェクト指標・統計専門家 石田洋子氏 [1] セッションの目的及び発表者紹介 インドネシア政府国家開発計画庁(BAPPENAS) SDGs 事務局長 フィフィ・ユラスワティ氏 [2] 発表「インドネシアにおける SDGs 実施に向けた政府戦略の概要及び進捗」フィフィ・ユラスワティ氏 [3] 質疑応答 [4] 自国における SDGs の進捗状況に関する情報共有(1 カ国につき 3-5 分) 参加国 [5] 総括 石田洋子氏
15:20-15:30	休憩
15:30-17:00 (90 分間)	セッション2: より良い評価のためのより良い基準 リードファシリテーター:経済協力開発機構開発援助委員会(OECD-DAC)開発協力局(EvalNet)評価ユニット長 メーガン・ケネディ=シュアン氏 [1] 発表「基準とは何か?その使用目的とは?- 使用原則及び新基準」メーガン・ケネディ=シュアン氏 [2] ケーススタディ「JICA のプロジェクト評価の新たな幕開け-事業評価基準の改訂」JICA 評価部事業評価第1課長 山口みちの氏 [3] 質疑応答 [4] 演習「新たな評価基準の各自の評価実践への適用」モデレーター:ミーガン・ケネディ=シュアン氏 [5] 総括 ミーガン・ケネディ=シュアン氏

第 2 日目	
13:10 -13:30	受付
13:30-15:00 (90 分間)	セッション3: JICA の保健セクターへの協力に関するテーマ別評価 リードファシリテーター: JICA 評価部事業評価第 2 課 川本華子氏 [1] 発表「JICA の保健分野の協力に関するテーマ別評価」アイ・シー・ネット株式会社 シニアコンサルタント 笹尾隆二郎氏 [2] 質疑応答 [3] グループディスカッション(3 グループによる分科会)モデレーター: JICA 評価部事業評価第 2 課 川本華子氏、伊月温子氏、及び笹尾隆二郎氏 [4] グループディスカッション結果の共有 モデレーター: 川本華子氏 [5] 総括 川本華子氏
15:00-15:15	休憩
15:15-16:45 (90 分間)	セッション4: 評価の制度的利用:政策評価制度の役割 セッション議長兼リードファシリテーター アセラ・カルガンピティヤ氏 [1] はじめに「セッションの目的及び発表者紹介」アセラ・カルガンピティヤ氏 [2] 発表 1. 「政策評価制度 (NEPS) の概要」スリランカ国会議員 カビール・ハシム氏 2. 「アジア太平洋地域における NEPS の現状-調査結果の発表」APEA NEPS テーマリーダー ヤティン・ディワカー氏 3. 「フィリピンにおける国家評価制度:評価に関する規則、新ガイドライン、評価の実践と活用」フィリピン国家経済開発庁モニタリング・評価担当部長 ヴィオレッタ・コープス氏 4. 「インドの国及び州レベルにおけるプログラム評価実施の成果と課題」インド行政委員会開発・モニタリング・評価室部長 シュウウィタ・シャルマ氏 [3] NEPS に関する調査、フィリピン及びインドの事例発表に対するコメント カビール・ハシム氏 [4] 質疑応答 [5] 総括 アセラ・カルガンピティヤ氏
16:45-17:00	閉会セッション 共同議長サマリー

共同議長サマリー

セッション 1: SDGs の実施とモニタリングの進捗、成果及び課題: インドネシアのケーススタディ

セッション 1 では、SDGs の達成に向けて各国がどのような取り組みを行っているかを共有し、議論することを目的とした。セッション前半では、インドネシア政府国家開発計画庁（BAPPENAS）SDGs 事務局長のフィフィ・ユラスワティ氏が、インドネシアにおける SDGs 政策の進捗と達成状況について発表し、質疑応答が行われた。後半は、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、マレーシア、タイの 5 ヶ国が、SDGs の実施状況を簡単に紹介した。

- BAPPENAS のユラスワティ氏は、インドネシア政府が、e-Monev などの手段を用いて中央と地方レベルで SDGs の実施プロセスを調整する仕組みを構築しているなど、具体例を紹介しながら、いかに SDGs の包括的な政策と戦略を実施しているかについて発表した。BAPPENAS は、国際的なドナー機関や民間セクターを含む様々な関係者と協力し、統合的な資金調達の枠組みを実現するための議論を重ねてきた。そして、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が、SDGs の進捗に与えた影響についても共有された。
- 参加者からは、行政の体制、統計局の関与、SDGs の実施プロセスにおける資金調達の課題などに関する質問が出され、ユラスワティ氏はその一つ一つに回答した。
- バングラデシュ、カンボジア、ラオス、マレーシア、タイの代表者が、自国での SDGs 実施の進捗状況を簡単に紹介した。
- 各国とも、新型コロナウイルス感染症の流行による様々な課題はあるものの、SDGs のターゲットや指標のローカライズ、モニタリング・システムの強化、ドナーとの協力形態の変更などを議論し、SDGs 達成に向けた独自の政策を推進していた。

セッション 2: より良い評価のためのより良い基準

セッション 2 のキーワードは「評価基準」であった。経済協力開発機構開発援助委員会（OECD-DAC）開発協力局（EvalNet）評価ユニット長のメーガン・ケネディ＝シュアン氏が OECD-DAC の評価基準を紹介し、JICA 評価部事業評価第 1 課長の山口みちの氏が JICA の事業評価制度と評価基準を紹介した。最後に、ケネディ＝シュアン氏の進行により、参加型の学習演習セッションが行われた。

- ケネディ＝シュアン氏は、評価基準は、評価を行うに際して的確な質問をする手助けとなるとして、評価基準の定義と意味について説明した。これら基準は、評価の文脈に合わせ、思慮深く使用される必要がある。続いて、ケネディ＝シュアン氏は、OECD-

DACの改定評価基準である「妥当性」、「整合性」、「有効性」、「効率性」、「インパクト」、「持続性(自立発展性)」を、開発協力の文脈において紹介、説明した。同氏は、新型コロナウイルス感染症世界評価連合(COVID-19 Global Evaluation Coalition)を紹介し、参加を呼びかけた。

- 山口氏の発表で注目すべき点は、JICA独自の評価制度についてであった。JICAは、DAC評価基準とレーティング・フローチャートを組み合わせて、事後評価を行っている」と説明し、JICAによる6つの評価基準の解釈を紹介した。またJICAは、SDGsの原則に対応するため評価制度の改善を継続していること、さらには、「適応・貢献(パフォーマンス)」と「付加価値・創造価値(アディショナリティ)」という、レーティングには反映されないが、包括的な評価のために非常に重要な「ノンスコア項目」を導入していることも紹介した。「人々の幸福」、「誰一人取り残さない」という点をどう評価するかは、引き続きJICA内で議論されている。
- ケネディ=シュアン氏は、学習演習セッションを主導し、「あなたに関わっている、あるいは評価したいと思う介入を考え、重要な評価項目を考えてください」という質問を投げかけた。その後、参加者は分科会でそれぞれの考えを共有した。参加者は全員、積極的に楽しみながら、この演習に参加した。

セッション3: JICAの保健セクターへの協力に関するテーマ別評価

セッション3では、JICAのテーマ別評価の新たな手法の導入に向けた取り組みが共有された。新たな手法は、これまでのプロジェクト経験からの学びを整理し、今後のプロジェクト形成・実施に最大限活用するための改善を図ることを目指したものである。

- 本テーマ別評価を担当したアイ・シー・ネット(株)シニアコンサルタントの笹尾隆二郎氏は、本評価で取り入れた、システムティック二次分析手法およびその結果について発表した。同手法は、(これまでに実施したプロジェクトの)ショートリストを作成するスクリーニング・ステップと体系的な分析ステップからなること、テーマ別評価のアウトプットとして、注目すべきアウトプットを特定し、今後のプロジェクトの策定・実施のための知見及び教訓をまとめることなどが紹介された。また、JICAがベトナムで支援するバイオセーフティと実験室診断の能力向上プロジェクトの事例を取り上げ、その成果が紹介された。事例では、テーマ別評価の独自性や論理性、使い勝手の良さが確認された一方で、改善すべき課題も見つかった。
- OECD-DACの評価基準と、テーマ別評価の(ショートリストのための)スクリーニング基準との関連性、テーマ別評価は技術協力とインフラ・プロジェクトのどちらで行われるのか、テーマ別評価の対象はプログラムなのかプロジェクトなのか、といった質問が参加者からあった。これらの質問に対して、笹尾氏は現在の知見を踏まえて回答した。
- 発表に続き、参加者を3つのグループに分け、グループ討論が行われた。その後の

全体討議では、グループ討論を踏まえた課題が共有された。笹尾氏は、今回のテーマ別評価は注目すべきアウトプットを特定することを目的としており、通常の「評価」とは異なること、(どの事業をとりあげるか)スクリーニングする手順の透明性がより求められること、注目すべきアウトプットの特定に当たっては総合的な評価が必要であること、特定された注目すべきアウトプットをいかに一般化し類似または異なる地域の文脈に適用させるかなど、それぞれに答えた。

- 笹尾氏は、参加者から寄せられた有益な意見を参考に、テーマ別評価の方法を更に改善していきたいと締めくくった。

セッション 4: 評価の制度的利用: 政策評価制度の役割

最終セッションは、本ワークショップの共催者である APEA の企画で行われた。本セッションの主な論点は、国内における評価の制度化と活用の重要性であった。APEA 会長のアセラ・カルガンピティヤ氏が議長を務め、次の 4 名の発表者がこのテーマについて論じた。

- 最初の発表者、スリランカ国会議員のカビール・ハシム氏は、主催者である日本国外務省、APEA への謝辞を述べるとともに、現在の国内外の評価をめぐる環境に対応するためには、政策評価制度が重要であることを説明した。現在、世界のほぼ全ての政府には説明責任を果たすことが求められており、それに応えるためには、エビデンスに基づく評価が不可欠である。政策評価制度は、政府の指導者や職員が評価の利点を理解し、独立した信頼できる評価を促進するための重要な手段である。
- APEA 政策評価制度テーマリーダーのヤティン・ディワカー氏は、APEA が実施した政策評価制度に関する調査結果を紹介した。アジア大洋州地域では、評価が制度化されている国は少なく、政策評価制度やガイドラインを持つ国は限られている。評価の専門家の数が少ないことが、この状況を一層悪化させている。国会議員の評価に対する意識の低さは、評価のための議員フォーラムがある国が非常に少ないことや、ほぼ全ての国で評価に対する需要が乏しいことに表れている。ディワカー氏は、2022 年半ばに政策評価制度調査を再び実施するとして、提言と次のステップを共有した。
- フィリピン国家経済開発庁モニタリング・評価担当部長のヴィオレタ・コープス氏は、フィリピンにおける評価の実践について、評価政策の枠組みの構築から、評価ガイドラインの作成、特定の分野におけるパイロット・テストに至るまで、どのように行われたかを説明した。フィリピン国家開発計画に基づき、政策やプログラムを改革し、意思決定を支援するために、より多くのエビデンスを生み出すことが強く望まれている。コープス氏は、NEDA-UNDP 戦略的モニタリング・評価プロジェクトの内容、評価結果の活用、課題、教訓を紹介した。
- 最後に、インド行政委員会開発・モニタリング・評価室部長のシュウィタ・シャルマ氏の発表が行われた。本発表では、インドで実施されている評価システムの概要と、モニ

タリング・評価体制及び実践を強化するために、国や地方レベルで実施されている様々な取り組みが紹介された。また、能力やデータの質といった制度的な課題や、ジェンダー主流化のような横断的な課題を含む注目すべき戦略的イニシアティブのいくつかが取り上げられた。中央政府及び州政府は、モニタリング・評価体制・実践において、他の主要関係者との協力を通じて、今後も継続してこれらの課題を精査し、対処に取り組んでいく。

- 各人の発表の後、カビール・ハシム氏がそれぞれの発表についてのコメントを述べ、評価を開始し制度化するためには、政治的な擁護者が必要であることを強調した。最後に、カルガンピティヤ氏の進行により、質疑応答が行われた。

発表要旨

(発表順) (訳注: 以下は発表者から共有されたもの)

セッション1: SDGs の実施とモニタリングの進捗、成果及び課題: インドネシアのケーススタディ

「インドネシアにおける SDGs 実施に向けた政府戦略の概要及び進捗」

フィフィ・ユラスワティ氏 インドネシア政府国家開発計画庁 (BAPPENAS) SDGs 事務局長

インドネシアでは、全ての関係者のコミットと関与を深めながら、SDGs の実施にあたっている。大統領令に基づき、SDGs は国家及び地方の中期開発計画に組み込まれている。各省庁や地方自治体は、SDGs のターゲットや指標を取り込む形で、毎年の開発目標やプログラム、活動を策定している。SDGs に関するメタデータ、ロードマップ、国・地域別活動計画、モニタリング・評価及び報告のためのガイドラインなどのツールも、関係者による SDGs 実施を支援している。地方レベルでは、SDGs のハブとして 26 の SDGs センターが大学に設置されている。民間企業や市民団体の関与を高めるために、グリーン・タクソミー、持続可能な社会を支える金融システム構築に向けたロードマップ、企業の社会的責任に関する報告書などが策定されている。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受けて、インドネシア政府は「*Build back Better*」、前よりも良いものにしようとする変革戦略として、6 つの「ゲームチェンジャー」を準備している。この中には、社会保障制度や国の保健医療制度の改革、災害復興制度の構築、デジタルトランスフォーメーションの推進、国内の生産性及び連結性の向上が含まれている。また、低炭素開発、循環型経済、クリーンモビリティの実現、環境に優しいエネルギーミックスの利用拡大、自然を基盤とする気候問題の解決に向けた投資なども始まっており、インドネシアにおけるグリーンエコノミーへの変革の始まりでもある。

パンデミックの発生は、SDGs の資金ギャップを拡大させた。そこでインドネシアは、あらゆるリソースを動員し、相乗効果やトレードオフに取り組み、改革の優先順位付けができるよう、資金調達の状況をマッピングする統合国家資金調達フレームワーク (INFF) の策定に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症は SDGs の目標達成にリスクをもたらすが、SDGs の原則に基づいた進展をもたらす機会にもなる。コミュニティのレジリエンスと適応力を高めるためには、更なる協力と革新が必要である。

セッション2: より良い評価のためのより良い基準

「基準とは何か？その使用目的とは？ - 使用原則及び新基準」

ミーガン・ケネディ=シュアン氏 経済協力開発機構開発援助委員会 (OECD-DAC) 開発協力局 (EvalNet) 評価ユニット長

本学習セッションでは、2019 年に OECD-DAC で採択され、世界で広く使われている基準と使用原則を紹介する。JICA や地域における他のパートナーの事例をもとに、6 つの評価基準、「妥当性」、「整合性」、「有効性」、「効率性」、「インパクト」、「持続性(自立発展性)」について、参加者の理解を深めることを目指す。対話型の演習により、参加者が、評価基準の概念を学び、定義について質問し、自分の文脈でそれらを使用する最善の方法を理解する機会とする。

「JICA のプロジェクト評価の新たな幕開け-事業評価基準の改訂」

山口みちの氏 JICA 評価部事業評価第一課長

JICA は、新しい DAC 評価基準に基づき、JICA 評価制度における事後評価基準を改訂した。従来の 5 つの基準(妥当性、有効性、インパクト、持続性(自立発展性)、効率性)の定義を改定し、整合性を加えただけでなく、事業の管理や実施、教訓を分析するために「ノンスコア項目」という新たな視点を導入した。この「ノンスコア項目」は、開発の有効性、環境の変化に応じた意思決定を強化するものである。発表では、「人々の幸福」と「誰一人取り残さない」という観点から、評価の更なる改善に向けて JICA 内で議論されている課題についても言及する。

セッション3: JICA の保健セクターへの協力に関するテーマ別評価

「JICA の保健分野の協力に関するテーマ別評価」

笹尾隆二郎氏 アイ・シー・ネット株式会社 シニアコンサルタント

本セッションは、JICA が現在行っているテーマ別評価を通じて、参加者が自らの ODA プロジェクトを見直す際の新たな視点を提供することを目的としている。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生により、JICA がプロジェクトの経験を最大限に活かして、感染症対策分野を支援することへの期待が高まっている。このため、JICA 評価部は、パートナー国においてプロジェクトが生み出した物理的・非物理的な注目すべきアウトプット、及びその中長期的な効果を明らかにするために、過去のプロジェクトを対象にテーマ別評価を実施している。本発表では、本評価で適用した評価手法である「システムティック二次分析」

の概要とその結果について紹介する。発表後にグループ討議を行い、参加者自身の気づきや提言を共有する。

セッション4: 評価の制度的利用:政策評価制度の役割

「政策評価制度 (NEPS) の概要」

カビール・ハシム氏 スリランカ国会議員

質の高い国家評価制度を通じて得られる評価結果に基づき、国家の意思決定がなされることの重要性については、複数の関係者が賛同している。(世界議員フォーラムが招集したコロンボ評価会議 2018 (EvalColombo 2018)における)コロンボ宣言に唱われているように、評価によるエビデンスを求めていく上で、国会議員は鍵となる関係者である。本発表では、政策評価制度 (NEPS) が、強力な評価文化を醸成する上で重要であることに焦点を当てる。例えば、開発評価のための議員連盟が実施した NEPS に関する世界的な調査により、政策評価制度を有する国は限られていることが明らかにされた。政策評価制度は、評価を可能にする環境、すなわち政府の主要な指導者や行政官が評価の利点を理解し、その利用を促進する環境を形成する上で、重要な手段である。従って、独立した信頼できる評価とその活用を促進するような政策評価制度を有することは、重要である。そのほかにも、個人、組織、評価の活用を可能にする環境作りという相互に関連する3つのレベルで、国の評価能力を醸成することが重要である。

「アジア太平洋地域における NEPS の現状 - 調査結果の発表」

ヤティン・ディワカー氏 APEA NEPS テーマリーダー

アジア太平洋地域評価戦略の「政策評価制度の推進」に関する協議を、2020 年 12 月と 2021 年 12 月にそれぞれ 2 回実施した。第 1 回目の協議における各国の発表と、地域レベルで実施し 14 の評価専門機関 (VOPEs) が回答した調査結果をもとに、2021 年 9 月に地域の NEPS の状況に関する報告書が発行された。本発表では、重要な調査結果と次のステップの提案を紹介する。現状、この地域では、国レベルで政策評価制度や評価に関連するガイドラインを有する国は限られており、評価はあまり制度化されていない。評価の専門性を高める手段がないことが、十分な数の評価者を育成することを阻んでおり、状況を更に悪化させている。国会議員の評価に対する意識の低さは、評価のための議員フォーラムがある国が非常に少ないことや、ほぼ全ての国で評価に対する需要が乏しいことに表れている。

「フィリピンにおける国家評価制度 - 評価に関する規則、新ガイドライン、評価の実践と活用」

ヴィオレッタ・コープス氏 フィリピン国家経済開発庁モニタリング・評価担当部長

本発表では、評価政策の枠組みの構築、ガイドラインの作成、特定の分野におけるパイロット・テストといったフィリピンにおける評価の実践に関して議論する。フィリピン開発計画に基づき、透明性や説明責任の向上及び学びの促進を目指して、政策やプログラムの改革、あるいは意思決定を支援するために、意図した結果が達成された(または達成されなかった)エビデンスを引き出すことが強く望まれている。また、国際的な評価基準や規範を、現地の事情に合わせて適応することが可能であることについても論じる。評価文化と実践を根付かせるための課題と機会としては、行政府と立法府における評価の継続的な提唱と推進、資格の標準化、評価能力の開発、国家評価アジェンダの設定がある。

「インドにおける国及び州レベルにおけるプログラム評価実施の成果と課題」

シュウィタ・シャルマ氏 インド行政委員会開発・モニタリング・評価室部長

本発表では、インドで実施されている評価制度の概要を説明し、インドのモニタリング・評価体制と実践を強化するために、国や地方レベルで行われている様々な取り組みについて議論する。また、評価に関する制度的課題(能力、データの質など)と、課題を特定・評価し対処するために、中央政府及び州政府が他の主要関係者との協力を通じて行っている注目すべき戦略的な取り組みを簡単に紹介する。

発表者プロフィール

(発表順)

セッション1: SDGs の実施とモニタリングの進捗、成果及び課題: インドネシアのケーススタディ

石田洋子 (リードファシリテーター)

広島大学教授／JICA-BAPPENAS インドネシア共和国持続可能な開発目標 (SDGs) 実施体制強化プロジェクト指標・統計専門家

25 年間にわたる国際協力コンサルタントとしての活躍を経て、2015 年 10 月に広島大学に着任。コンサルタントとして、外務省、JICA、地方自治体、NGO を始めとする様々な政策、プログラム、及びプロジェクトレベルの評価に携わった経験を有する。現場での経験を活かし、能力開発プロジェクトの評価に関する混合研究法(ミックスド・メソッド・アプローチ)の研究を行ってきた。現在は広島大学教授及び日本評価学会 (JES) 副会長として、日本や開発途上国における若い世代の能力開発に携わっている。また、JICA-BAPPENAS インドネシア共和国 SDGs 実施体制強化プロジェクトのチームメンバーを務めている。

フィフィ・ユラスワティ

インドネシア政府国家開発計画庁 (BAPPENAS) SDGs 事務局長

国家開発計画庁社会問題・貧困削減担当大臣の上級顧問を務める傍ら、SDGs 事務局長として、社会開発及び貧困削減プロセスの加速化に関する政策及び戦略の分析・助言を行っている。コミュニティ主導型開発である住民エンパワメント国家プログラム (PNPM)、条件付現金給付や補助金改革をはじめ、主要な貧困削減プログラムの開発において長年の経験を有する。また、国家社会保障制度、金融包摂のための国家戦略、グローバル・パルス・イニシアティブを通じたビッグデータ研究、政府対個人 (G2P) 支払、ならびに包括的社会保障のための統合サービス及び照会システムの開発にも携わってきた。2004 年に南カリフォルニア大学にて都市計画・開発分野の博士号、1999 年に米国ウィスコンシン大学マディソン校にて都市・地域計画分野の修士号、1991 年にインドネシア大学にて学士号を取得したほか、貧困分析、コミュニティ・エンパワメント、社会保障、金融包摂、評価、チェンジマネジメント及びデジタルトランスフォーメーション分野の研修コースを受講している。

セッション2: より良い評価のためのより良い基準

ミーガン・ケネディ=シュアン (リードファシリテーター)

経済協力開発機構開発援助委員会(OECD-DAC)開発協力局(EvalNet)評価ユニット長

OECD 開発協力局の評価ユニット長として、開発評価ネットワーク(EvalNet)の管理を担っている。現在は、ブレンデッド・ファイナンスの評価に関する取り組みを主導し、新型コロナウイルス感染症グローバル評価連合の調整に努めている。インパクト重視型戦略によるセクターの枠を超えた協働を支援するなど、エビデンスに基づく政策立案を支援し、社会変革を促進することを専門としている。これまでに、ロンドンの児童投資基金財団にて、ラテンアメリカ、ヨーロッパ及び中国における気候変動の緩和に関する 1300 万ドル相当のエビデンス・ポートフォリオ、測定及び評価業務の管理に従事した。モントレー国際大学院大学にて行政学の修士号を取得、米国籍を持ち、現在はフランスのパリ在住。

山口みちの

JICA 評価部事業評価第1課長

2022 年 1 月より現職。主な経歴は、アジアにおける円借款業務であり、2007 年から 2010 年に JICA インドネシア事務所の駐在員、2016 年から 2018 年に JICA パキスタン事務所次長として勤務し、インドネシア・パキスタンにおける円借款プロジェクトを担当した。また、2018 年 12 月から 2021 年 12 月まで、インフラ技術業務部調達監理課長を務めた。円借款プロジェクトの実施機関、コンサルタント及び請負業者などの関係者を対象としたセミナーを開催したほか、円借款プロジェクトにおける国際コンサルティング・エンジニア連盟(FIDIC)の契約条件を用いた標準入札図書の改訂や標準入札図書の適切な使用方法の普及において主導的役割を果たした。

セッション3: JICA の保健セクターへの協力に関するテーマ別評価

川本華子 (リードファシリテーター)

JICA 評価部事業評価第 2 課

国際協力機構(JICA)に所属する評価士。日本評価学会の認定専門評価士の資格を有する。保健医療及び社会福祉関連のプロジェクト評価を担当しているほか、JICA 内部におけるプロセス分析の取りまとめを担当し、ガイドライン、ハンドブック及びその他の業務管理資料の品質管理にあたっている。そのほか、東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室

の客員研究員として、プロジェクトの持続可能性の向上に関する研究を行っており、最近では、質的手法を用いたマラリア関連の予防行動の調査に関する研究に従事している。

笹尾隆二郎

アイ・シー・ネット株式会社 シニアコンサルタント

日本のコンサルティング企業であるアイ・シー・ネット株式会社の技術顧問。1983年に早稲田大学法学部を卒業、1990年にブリティッシュ・コロンビア大学にて経営学修士(MBA)を取得している。銀行勤務の後、国連世界食糧計画におけるキャリアを経て、1994年よりアイ・シー・ネット株式会社に勤務。28年間にわたりODAのコンサルティング事業に従事し、これまでに約40カ国を訪れた経験を有し、プロジェクト管理及びプロジェクト評価を主な専門としている。国際開発学会及び国際プロジェクト・プログラムマネジメント協会の会員でもある。

セッション4: 評価の制度的利用: 政策評価制度の役割

アセラ・カルガンピティヤ (セッション議長・リードファシリテーター)

アジア太平洋評価学会(APEA)会長／スリランカ・スリ・ジャヤワルダナプラ大学評価センター長

スリランカの弁護士であり、現在はスリランカ評価学会及びアジア太平洋評価学会の会長を務めている。ドイツで評価学の修士号を取得、評価に関する国際議員フォーラムの立ち上げや、2015年の国際評価年の運営に貢献した。また、開発評価研修のための国際プログラム(IPDETプログラム)の諮問委員及び、スリランカ・スリ・ジャヤワルダナプラ大学の評価センター長を務めている。

カビール・ハシム

スリランカ国会議員

評価に関する国際議員連盟(GPFE)の共同創設者兼会長。スリランカの国会議員であるとともに、開発経済学者でもある。スリランカ政府において高速道路・高等教育・投資促進担当大臣を務めた経歴を持つ。また、評価分野での貢献を認められ、国際評価国会議員賞を受賞している。

ヤティン・ディワカー

APEA 政策評価制度テーマリーダー

インド工科大学ボンベイ校農村地域のための技術代替センターの博士課程に在籍中。インドのモニタリング・評価制度及び能力に関する研究に従事し、インドのモニタリング・評価の体

制及び実践を強化する上で重要視される、国家モニタリング・評価政策の確立に強い関心を有している。EvalYouth Asia の共同代表、EvalYouth India の共同創設者兼共同代表、及びインドにおける評価コミュニティの中核的な存在であり、アジア太平洋地域評価戦略 (APRES) における政策評価制度 (NEPS) テーマ推進の共同代表者も務めている。2021 年 9 月に APEA が出版した「アジア太平洋地域における NEPS の現状報告書」の共著者。インド政府と協力して政策評価制度的枠組みの策定に取り組んでいる。

ヴィオレッタ・コープス

フィリピン国家経済開発庁モニタリング・評価担当部長

フィリピン国家経済開発庁のモニタリング・評価のための専門家チーム責任者として、政府開発援助 (ODA) の支援を受ける全ての国家プログラム及びプロジェクトの実施に関する調整、促進及び進捗に関する議会への年次報告を担当している。コープス氏率いるモニタリング・評価チームは、予算管理省長官と共同で署名した 2015 年の政策評価制度的枠組み (NEPF) の策定を調整した実績を有する。また、NEPF ガイドラインを起草し、そのガイドラインは、複数の評価研究において試行されている。

シュウィタ・シャルマ

インド行政委員会開発・モニタリング・評価室部長

インド政府の主要な政策シンクタンクであるインド行政委員会 (NITI Aayog) の開発監視・評価室室長。モニタリング・評価チームの一員として、技能開発、教育、保健及び社会的包摂といった政府が重視する分野のモニタリング・評価を担当している。シャルマ氏は、インドのモニタリング・評価の体制及び実践強化のために、主に能力開発、技術支援及びモニタリング・評価アウトリーチに注力し、WFP、アブドゥル・ラティフ・ジャミール・貧困アクションラボ (J-PAL)、ユニセフ、世界銀行及びビル&メリンダ・ゲイツ財団 (BMGF) を始めとする主要機関と密に連携してきた。また、大手テクノロジー企業、教育機関や政府機関で、コンサルタント、研究者及びチームマネージャーとして、11 年以上にわたる実績を重ねている。

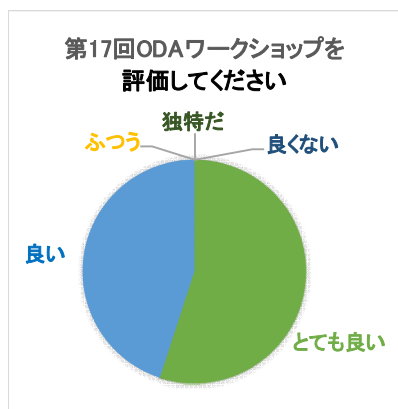
参加者の声

～ アンケートから

第17回 ODA 評価ワークショップ終了後に参加者へのアンケートを実施し、以下のようなコメント及び今後に向けての提案を得た。

全体的な満足度は非常に高い

アンケートに回答した参加者は、全員が、ワークショップのプログラムは業務と関連した有益な内容であり、今回得られた知識や経験は現在及び将来的な業務に適用できるものであったと回答した。よって、同僚に対しても、今回得られた知識や経験を共有したい、また将来、ODA 評価ワークショップに参加することを勧めたいと考えている。総体として、50%以上が第17回 ODA 評価ワークショップは「とても良い」、残りの回答者も「良い」と評価した。

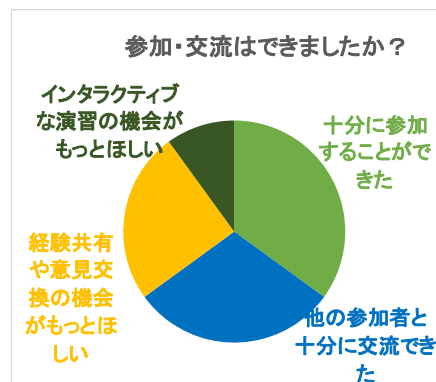


バーチャルでの初開催 交流型ワークショップ

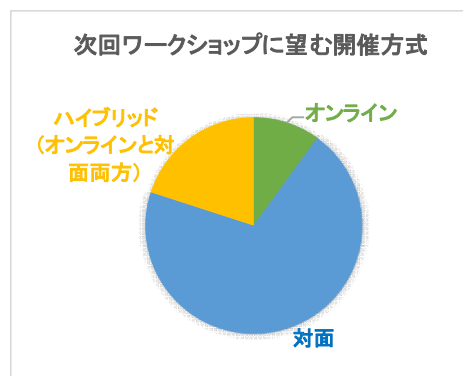
第17回 ODA 評価ワークショップは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、初めてオンラインで開催されたが、参加者の大半が、ワークショップ中に特段の通信上の問題はなく、また、インターネットを通じた情報、書類、資料などの提供についても満足していることが確認された。

一般的にオンラインによるイベントは、対面式よりも相互の交流がしづらく一方的であったり、参加者の一体感や交流している手応えを醸成しづらかったりする傾向が見られるが、回答者の3分の2近くが、「十分に参加できた」、また「他の参加者と交流できた」と回答した。

日本が開催してきた評価ワークショップの「交流型」で「参加型」という特色は、初めてのオンライン開催においても維持されたと理解できる。一方、回答者のうち3分の1は、もっと経験の共有や発言を行いたい、双方向で対話型の演習がもっとあるといい、と望んでおり、将来の(オンライン形式の)ワークショップ開催に際して改善の余地があることを示している。



回答者の3分の2以上が、より積極的な参加や交流を期待し、次回のワークショップは対面式開催を望むと回答、それ以外は、オンラインあるいはハイブリッド式(対面参加とバーチャル参加の両方で開催)を望んでいる。回答の中には、オンラインあるいはハイブリッド式の開催であれば、開催地へ渡航することが難しい事情や、地理的な距離にかかわらず、より広い参加を得やすいという指摘もあった。本アンケートの回答者のほとんどは、参加者同士の議論のための時間がもっと欲しいと希望している。以上の回答から、評価ワークショップの参加者は、他の国で同じような役割や職務を担う参加者と共に学び、お互いに意見を交換するために集まることの意義に価値を置いていると理解できる。



参加者リスト

国・機関名	機関・所属名	肩書	氏名
共催国・機関代表			
Japan	International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs of Japan	Deputy Director-General/ Deputy Assistant Minister (Ambassador)	Ms. OKADA Keiko
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	President	Mr. Asela KALUGAMPITIYA
共同議長			
Japan	Japan Evaluation Society / Center for the Study of International Cooperation in Education, Hiroshima University	Vice President / Director & Professor	Dr. ISHIDA Yoko
APEA (Japan)	Asia Pacific Evaluation Association School of Policy Studies, Kwansei Gakuin University	Vice President / Professor	Ms. NISHINO Keiko
発表者			
Indonesia	National SDGs Secretariat, BAPPENAS	Head	Dr. Vivi YULASWATI, M.S.
OECD/DAC	OECD Development Co-operation Directorate,	Head, Evaluation Unit / Senior Policy Analyst	Ms. Megan KENNEDY-CHOUANE
JICA(Japan)	Evaluation Division 1, Evaluation Department	Director	Ms. YAMAGUCHI Michino
JICA(Japan)	IC Net Limited	Senior Consultant	Mr. SASAO Ryujiro
JICA(Japan)	Evaluation Division 2, Evaluation Department		Ms. KAWAMOTO Hanako
JICA(Japan)	Evaluation Division 2, Evaluation Department		Ms. ITSUKI Atsuko
APEA (Sri Lanka)	Global Parliamentarians Forum for Evaluation	Chair / Member of Parliament, Sri Lanka	Mr. Kabir HASHIM
APEA (India)	Centre for Technology Alternatives for Rural Areas, Indian Institute of Technology Bombay	PhD Scholar	Mr. Yatin DIWAKAR
APEA (Philippines)	National Economic and Development Authority (NEDA)	Director, Monitoring and Evaluation Staff	Ms. Violeta CORPUS
APEA (India)	Development Monitoring & Evaluation Office, NITI Aayog	Director	Dr. Shweta SHARMA

国・機関名	機関・所属名	肩書	氏名
招聘参加者			
Australia	Department of Foreign Affairs and Trade	Director, Development Evaluation Unit	Mr. Simon FLORES
Bangladesh	Economic Relations Division, Ministry of Finance	Joint Secretary	Mr. Muhammad Ashraf Ali FARUK
Bangladesh	FABA & ICT, Economic Relations Division, Ministry of Finance	Joint Secretary	Dr. Chowdhury Zia Uddin HAYAT
Bhutan	Gross National Happiness Commission	Deputy Chief Program Coordinator	Mr. Sonam YARPHEL
Cambodia	The Council for the Development of Cambodia	Director	Ms. Phana VEUNIDA
Fiji	Ministry of Economy	Assistant Manager-Dept Management	Ms. Sisilia Daveta NALAIDE
Indonesia	National SDGs Secretariat, BAPPENAS	Former Coordinator, Expert Team	Dr. Nina SARDJUNANI
Kiribati	Ministry of Foreign Affairs & Immigration	Deputy Director for Asia Pacific Division	Mr. Manate YEETING
Laos	Department of International Cooperation (DIC), Ministry of Planning and Investment,	Deputy Director General	Mr. Vanpheng SENGMANOTHONG
Malaysia	Economic Planning Unit, Prime Minister's Department	Director	Ms. Ashikin Abdul RAZAK
Maldives	Ministry of Foreign Affairs	Director	Ms. Shahiya ALI MANIK
Marshall	Marshall Islands Marine Resource Authority	Director	Mr. Glen JOSEPH
Marshall	Ministry of Foreign Affairs & Trade	Foreign Service Officer	Ms. Asia CHONG-GUM
Marshall	Ministry of Foreign Affairs & Trade	Foreign Service Officer	Ms. Tanya TERRY
Marshall	Ministry of Foreign Affairs & Trade	Foreign Service Officer	Ms. Claret CHONGGUM
Micronesia	FSM National Government	Special Assistant to President on ODA Matters	Ms. Yvonne Sue JOHNNY
Mongolia	Ministry of Finance	Advisor, Development Financing Department	Ms. Gerelmaa BAATARKHUU
Nauru	Finance Department, Government of Nauru	Director of Aid	Mr. Samuel GRUNDLER

国・機関名	機関・所属名	肩書	氏名
招聘参加者			
Nepal	International Economic Cooperation Coordination Division, Ministry of Finance	Under Secretary	Mr. Dilli Raj LEKHAK
Pakistan	Ministry of Economic Affairs	Section Officer (BS-18)	Mr. Hamid KARIM
Palau	Bureau of Foreign Affairs & Trade, Ministry of State	Foreign Service Officer, Head of the Division of East Asian Affairs	Mr. Jordan Sears YURI
Papua New Guinea	Department of National Planning and Monitoring	Assistant Secretary	Mr. Dan LYANDA
Philippines	National Economic and Development Authority	Officer-In-Charge Assistant Director	Mr. Aldwin URBINA
Samoa	Ministry of Finance	Assistant Chief Executive Officer for Aid Coordination and Debt Management	Ms. Peresitene Sialei KIRIFI
Sri Lanka	Department of External Resources, Ministry of Finance	Additional Director General	Mr. Sampath MANTHRINAYAK
Thailand	Thailand International Cooperation Agency TICA (MFA)	Director of Development Promotion and Coordination Division	Ms. Arunee HIAM
Timor-Leste	Ministry of Finance	Chief of Department	Mr. Gaudencio Soares DE DEUS
有識者			
OECD/DAC	OECD/DAC		Ms. Jenna SMITH-KOUASSI
JICA(Japan)	Evaluation Department	Director General	Mr. SHIGIYA Satoshi
共同国・機関関係者			
Japan	ODA Evaluation Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan	Director	Ms. NISHINO Yasuko
Japan	ODA Evaluation Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan	Principal Deputy Director	Mr. KATAMOTO Masahiro
APEA (Philippines)	Asia Pacific Evaluation Association	Treasurer	Ms. Ana Erika LAREZA
APEA (Nepal)	Nepal Evaluation Society	Chairperson	Mr. Bhuvan Bajra BAJRACHARYA
APEA (Indonesia)	Asia Pacific Evaluation Association	Board Member	Ms. Ratnayu SITARESMI

国・機関名	機関・所属名	肩書	氏名
事務局			
Japan	ODA Evaluation Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan	Deputy Director	Ms. YOKOTANI Kaoru
Japan	ODA Evaluation Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan	Economic Cooperation Researcher	Ms. KONNO Kyoko
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	Manager	Mr. Randika Lawson DE MEL
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	Coordinator	Ms. Madhuka LIYANAGAMAGE
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	Asia Pacific Communication HUB LEAD	Ms. Chathuranga Hasithi SAMARASINGHE
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	Team Member of APEA	Ms. Pramoda WEERATHUNGA
APEA (Sri Lanka)	Asia Pacific Evaluation Association	Team Member of APEA	Ms. Punya LAKMINI